友らの障害児放課後ケアの開所式に出席して(9/2)

「友らは、よくやる！」と、改めて感心！！　感服！！

先に「直向きな取り組みが、ここまで親の心を動かすとは…(「雑学BN」の「随想等関係(Ⅵ)P、2007.06.22.:参照)」で触れた、友らの活動場所2ケ所目(障害のある児童デイサービス)の開所式に出席した。

とってもアットホームな素敵な開所式だった。
行政関係機関、利用児の通う各学校、町内会、地域の民生委員、等々の関係者、また、他の放課後ケア事業所のスタッフ、そして、何よりも利用を希望するご家族の方々とお子さんたち、たくさんの人が参集。

障害児の母親たちの数人が、歌や遊戯のリードもあり、子どもたちも退屈なく集いに参加でき、賑やかで楽しい一時でした。
(この数人のお子さんたちもこのNPO活動を利用しているとか。また、この母親たちのグループは色んな所に招かれ、楽しい一時を提供しているとか。)

この活動場所を提供した方の奥様の挨拶もあったが、障害のある子どもの親としての思い、願いに触れられたお話が印象的だった。
このお母さんは、式の最後の方では部屋の隅で涙ぐんでいたが、この日をようやく迎え、みなさんが喜び、子どもたちの生き生きした姿を目にし、場所を提供しただけに恐らく色んな思いが交差したのだろうと思う。

二ケ所目の新たなスタッフの方々とも初めてお目にかかったが、優しく穏やかな物腰の方々のようにお見受けした。
中には、以前にお目にかかったことのある障害児通園施設での経験者もいて、再会にビックリしたし、心強い限り。

こうしてスタッフを希望してくれる方々が、地域周辺にたくさんいたことも嬉しい限り。

自分もこの活動場所近辺の団地に住む知人に送迎の車の運転を打診し、友らに紹介したところまずは快く週2日を引き受けてくれたよう。

「地域福祉とは場所のことでなく、地域の人々の繋がり。」と云われるが、地域の方々をスタッフに迎えることができたことは、この活動の順調な滑り出しかなと、今後が頼もしい。

それにしても、つくづく、「我が友らは、よくやる！」と、改めて感心！！感服！！
自分は口だけしかお手伝いできないが、友らに寄り添い続けたいと思っている。

追伸:後日、友らから次のようなメール(抜粋)。
「私たちは、お母さんたちに寄添い、阿部さんになぐさめられ…ずっとめぐり廻って、私たちもお母さんたちに助けられているんですね。」

- 「雑学BN」
- 「雑学・フォトアルバム」